

## 映画「3月のライオン」 大友啓史 監督

羽海野チカの大ヒットコミック『3月のライオン』を、「るろうに剣心」シリーズの大友啓史監督&「バクマン。」「君の名は。」の神木隆之介主演で実写映画化!!  
今回、作品について大友監督にお話を伺いました。

一本作を作る上で、軸に置いたものってなんですか？

それはすごくシンプルで主人公・零くんの成長ですね。彼は高校生だけどプロの棋士で、彼の原点というのは、小学校3年生の時に家族が事故で亡くなり、引き受け先がないなか、父親の友人であるプロ棋士の幸田の家に内弟子として引き取られた時。その際、「君は将棋が好きか」と問われて、「はい」と答えた。後で「嘘だった、生きるための」という、まさに他に生き場所がなくて、子ども心に自分は将棋をやるしか生きていくすべがないと思い、それで彼は将棋だけに集中して生きてきた、という子どもなんです。劇中冒頭で「君は将棋が好きか」と問われた零くんが「はい」と答えるんですが、この原点のシーンから中盤で「嘘だった、生きるための」とナレーションが入ります。彼が成長していく過程を描いていくうえで大切にしたいエピソードです。生きるために指し続けてきた将棋、好きではなかったか分からなかった将棋が、自分で“好き”だと言えるまでのドラマっていうのを意識して縦軸を作っていった感じですかね。生きるための嘘が本当になっていくまでの少年のドラマにしました。

一零くんが成長するドラマということですが、他の登場人物も魅力的なキャラクターが多く、それを豪華キャストの方が演じてらっしゃいますが、どういう演出をされたんでしょうか。

他の登場人物たちも全員、彼の成長過程で出会った人達なので、それを明確にしました。それぞれのキャラクターがいなくて零くんの成長は描けないし、なぜ零くんの成長と彼ら関わっているのかというと、それぞれが背負っているものが明確にあって、それに触れることで零くんが成長していくので、一人ひとりのキャラクターたちをきちんと描かないと零くんの成長も見えてこないと思っています。成長の過程にある子どもっていうのは、自分が成長しているなって自覚できないですよ。だから、彼の成長を見せていくには、周りの人間との関係性で、見せていくしかないと思いました。それを踏まえると、しっかり周りの



大友啓史 (おおもと けいし)

1966年生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。90年にNHK入局、97年から2年間L.A.に留学し、ハリウッドで脚本や映像演出を学ぶ。帰国後、NHK連続テレビ小説『ちゅらさん』シリーズ(01~04)、『ハゲタカ』(07・NHK)などを演出、映画「ハゲタカ」(09)の監督を務める。11年にNHKを退局し、事務所を設立。「るろうに剣心」(12)、「プラチナデータ」(13)を手掛ける。2部作品連続公開した「るろうに剣心 京都大火編 / 伝説の最期編」(14)が14年度の実写邦画No.1ヒットを達成し、数々の賞を受賞。その後も、「秘密 THE TOP SECRET」(16)、「ミュージアム」(16)と話題作を立て続けに手掛ける。



### 映画「3月のライオン 前編」 公開中

17歳の若き天才プロ棋士・桐山零。彼には家も家族も居場所も何もなかった。深い孤独を抱えながら将棋を指し続けていたある日、零は隣町に住む3姉妹と出会い、そのにぎやかな食卓に温かい支えを見出していく。闘うことでしか生きられなかった少年が愛することを知った時、その闘いの行方は……。

監／大友啓史

出／神木隆之介、有村架純、倉科カナ、染谷将太 他

○映画「3月のライオン 後編」 4/22 公開

### 天神・西通りが「3月のライオン」通りに！ 映画「3月のライオン」×西通り街頭フラッグ

公開を記念して、天神の西通りの街頭に「3月のライオン」のビジュアルを施したフラッグがジャックし、期間限定の【「3月のライオン」通り】となっている。豪華キャスト&ポスタービジュアルを合わせた合計20通りのフラッグが63箇所に。西通りで見ることが出来ないの、「3月のライオン」ファンならずとも、必見。先日来福された大友監督も大喜びでした。

期間：3月28日(火)まで。(予定)

